

## ＜キリンビール仙台工場＞RTD<sup>※1</sup>製造設備を新設 ～東北に新たなRTDの製造拠点を設け、物流課題を解決～

キリンビール株式会社（社長 布施孝之）は、さらなるRTD商品の販売数量増加に備えて、キリンビール仙台工場（工場長 荒川辰也）に新たにRTD製造ラインを新設し、2022年2月の稼働を予定しています。

※1 Ready to Drink の略。栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料

RTD市場は、お客様の嗜好の多様化などにより拡大傾向が続いており、本年10月の酒税改正以降はこの傾向がさらに強まると予想されています。RTDの販売数量の増加に対し、今回約75億円を投資し製造ラインを増設することで、製造能力を確保します。

今回、2019年RTD製造開始の名古屋工場に続いて、東北エリアに新たに7つ目<sup>※2</sup>となるRTDの製造拠点を設けることで、他エリアからの長距離転送の抑制および環境負荷軽減を実現します。長距離転送の削減により、年間のCO<sub>2</sub>排出量を約3,000t削減できると試算しています。

※2 キリンディステラリー富士御殿場蒸溜所、キリンビール岡山工場、取手工場、横浜工場、福岡工場、名古屋工場、仙台工場

### ●RTD製造設備概要

- |           |   |
|-----------|---|
| 1. 稼働開始時期 | 2022年2月（予定）   |
| 2. 導入工場   | キリンビール仙台工場<br>宮城県仙台市宮城野区港 2-2-1                               |
| 3. 製造能力   | 約140,000KL/年  |
| 4. 投資額    | 約75億円 <sup>※3</sup>   |
| 5. 製造対象商品 | 「氷結 <sup>®</sup> 」「キリン・ザ・ストロング」「本搾り <sup>TM</sup> 」などのRTD主要商品 |



※3 物流機能増強に対する投資含む

### ●新製造設備の特長

1. 製造能力の増強  
伸長を続けるRTD市場に対して、RTD製造ラインを新設することで製造能力を確保し、お客様の需要に柔軟に対応できる生産体制を構築します。
2. 物流負荷の低減  
東北エリアにRTD製造拠点を設けることで、長距離転送の抑制および環境負荷低減を実現します。

キリングroupは、本年2月に、社会と企業のレジリエンス強化へ向けた新たなビジョン「キリングroup環境ビジョン2050」を策定しました。気候変動の課題に対しては、2050年までにバリューチェーン全体のGHG<sup>※4</sup>排出量ネットゼロを掲げています。

※4 温室効果ガス

今後もキリングroupは、豊かな地球の恵みを将来にわたって享受し引き継ぎたいという思いを、バリューチェーンに関わるすべての人々と共につないでいくために、さまざまな社会課題に対する取り組みを積極的に進めていきます。